建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部

最優秀賞

「 今こそ感じる建設業への感謝 」

愛知県立猿投農林高等学校　環境デザイン科　1年

日比野　未空

日本は世界でも地震が多い国です。近2024年、元日に発生した能登半島地震は記憶に新しいですが、今年の7月28日にも熊本でマグニチュード7．1の大地震が発生しました。21年前の阪神淡路大震災では、高速道路の高架橋が倒壊するという衝撃的な映像が記録されていますが、私は映像記録でしかそのことを知りません。しかし、近年の2つの災害がニュースで流れ、倒壊した建物やアスファルトが大きくめくれ上がった道路、体育館に身を寄せ合って避難生活を送る人々をリアルタイムで見て、「大災害、大地震はいつ自分の身に起きてもおかしくはない」と強く感じるようになりました。

「建設業は命を育て、命を守る仕事だ。」建設について学ぶ専門高校生となり、震災から私が考えた建設業の使命です。建物が頑丈であること。道はいつも車が走ることができる状態であること。川の水は堤防を越えず下流へ流れていること。普段の生活では当たり前になっている、これらの当たり前を作り、維持し続けている産業が、建設業です。

まず、建設の仕事には災害の発生前から準備し、被災を少なくする役割があります。建物の耐震工事や、橋や道路の耐震補強が常に行われています。このような対策によって、今後さらに大きな災害が起きた際に、倒壊や道路の損傷を防いでいます。実際、21年前の阪神淡路大震災の高速道路倒壊を受け、新たな落橋防止技術が生まれ、今年の熊本地震で大きな被害を防いだことを学びました。災害から学び、改善し命を守る建設の役割に驚きました。また、定期的な安全点検を行い、異状の早期発見に努めていることも知りました。愛知県の国道23号線の竜宮高架橋で亀裂をみつけ、直ちに通行止めにし、補修を行い早期に修繕を行ったという事例を学びました。愛知県の建設に携わる方々が高い安全意識を持ち、連携して道路の保全に取り組む姿勢に安心感を覚えました。

そして、災害が発生した後の復旧の役割こそ、建設の仕事が社会で大きな役割を果たしていると考えています。地震によって橋や道路が壊れてしまうと、救急車や消防車はもちろん、支援物資を運ぶ車が被災地へ向かうことができません。重機を使っていかに早くがれきを撤去するのか、壊れた橋や道路をどれだけ早く復旧するのか。自らも被災し、大変な状況であっても建設業がこれらの役割を果たすことを、多くの住民が期待しています。そして仮設住宅の建設を行い、被災者の生活基盤を整えることで安心した復興が始まります。被災地がいち早く普段の生活を取り戻せるように、建設業が災害復興に取り組んでいることを学び、心強く感じました。

私たちが生活で利用する施設も、建設業の「命を守る」役割があることを知りました。造園業についても学んでいる私にとって、特に公園のもつ役割について大切だと感じました。美しく整えられ、小さな子供でも安全に遊ぶことができる大きな公園が、地域にたくさんあります。これまではただ美しく整え、トイレや水飲み場が使えるように維持することが造園や建設の仕事だと考えていました。しかし、実際は植栽を適切に管理し、地震が起きても倒れないように育てることで、被災後は樹木が緑陰になり、火災発生時には樹木が火災の延焼を防ぎ、公園が避難所になります。
いつもなら「ちょっと汚いからあまり使いたくない」と感じてしまう公園のトイレですが、震災のニュースで「避難所にトイレが少ないことが一番困る」とう被災者の声を聴き、地域にみんなが使えるトイレがあることがとても大切なのだと気づきました。家族の憩いの場である公園も、人々の命を守る役割があることを学びました。東海地方、愛知県では最近大災害の記憶が薄れつつあります。伊勢湾台風も、東海豪雨も私の生まれる前の出来事で記憶にありません。しかし、南海トラフ大地震だけでなく、近年の猛暑、そして線状降水帯の発生などいつまた大災害が起きてもおかしくない地域に私たちは住んでいます。

「災害が起きても必ずまた立ち上がる。」　私は建設を学ぶ専門高校生として、これからも建設業について学ぶことで、災害から命を守り、復興する力になれると感じています。災害で失われる命が一人でも減るように、災害から一人でも早く、多くの人が希望を取り戻せるように。被災地のいち早い復興を祈り、今もなお石川県や熊本県で復興に取り組む建設業の方々に敬意をもち、学び続けます。

建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部

優　秀　賞

「 建設業の魅力について 」

愛知県立鶴城丘高等学校　総合学科　3年

法輪　和葉

私が考える建設業の魅力は、当たり前の暮らしを支える重要な役割を担えることだと考えます。高校では環境デザイン系列に所属し、土木について学んでいます。その中で道路や橋、河川、建物など私たちが普段何気なく利用しているものの多くは、建設業に携わっている人たちによってつくられていることを実感しました。系列の授業では、測量や土木構造物、施工などについて学んでいます。授業だけでなく、実習で実際に測量をするなどして、教科書で学ぶだけでは分からない難しさや楽しさを知ることができました。特に実習では班の人と確認しながら進めることの大切さを学びました。少しの測定ミスや確認不足がその後の作業に影響することもあるため、建設業は正確さや責任感が必要な仕事だと実感しました。さらに、班の人と話しながら作業する楽しさも学べました。

また、建設業には自分たちが携わったものが長い間地域に残るという魅力もあると感じます。自分が関わった道路や橋が完成し、実際に地域の方々が利用している姿を見ることができれば大きな達成感につながると感じます。完成したものを見て、自分たちの仕事が誰かの役に立っていると実感できることは、建設業ならではのやりがいだと考えます。さらに、建設したものは完成して終わりではなく、点検や維持管理を行いながら長く使っていく必要があります。そのため、建設業は地域と長く関わり続けることができる仕事であると考えます。

そして、建設業の重要な役割と考えているのが災害から人々の暮らしを守ることです。日本は自然災害が多く発生しており、そのための備えが重要です。道路や橋、河川などの整備や維持管理は、普段の生活を便利にするだけではありません。災害が起きた時に、避難や援助活動を支え、被害を少しでも減らすことにもつながります。災害が起きてから対処するだけでなく、被害を防ぐために事前に備えることも建設業のやりがいにも繋がる大切な魅力だと感じます。

建設業には人のために働いていることを実感できるという魅力もあると考えます。私がそのように感じたのは、近所の古い橋が整備されたことがきっかけです。以前よりも安全に通行できるようになり、私も含め近所の方に安心感を与えていることを実感しました。私たちの生活の中には建設業によって支えられているものがたくさんあります。人々が安心して生活できる環境を陰から支えていることに大きな価値があると感じます。さらに、これからの建設業には、時代に合わせて変化していくことも求められると考えます。少子高齢化による人手不足や災害対策、建物の老朽など様々な課題があります。これまでの知識や技術を受け継ぐだけでなく、新しい技術を取り入れ、より安全で効率的な仕事が重要です。ICT などの新しい技術を活用することで、建設業の働き方やイメージが変わっていくと考えます。

私は高校で土木について学ぶ中で、建設業の方のお話を聞いたり、実際に現場を見学させていただいたりしました。現場の雰囲気や女性の方の多さに驚くことが多かったです。建設業に抱いていたイメージがいいものに変わっていきました。将来は高校で学んでいることを生かして、建設に関わる仕事をしたいと考えています。高校で学んだ知識や技術を生かして、人々の生活を支え、地域の安全を守る仕事ができることは、とても魅力的なことだと考えます。

これからも土木について学び続け、建設業に関わる一人として、地域の方々から必要とされる人材になりたいです。道路や橋などをつくるだけでなく、それらを利用する方々の安心や笑顔まで支えられる仕事が建設業だと多くの人に伝えていきたいです。

建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部

最優秀賞

「 偏見を越えて見えた土木の誇り 」

東海工業専門学校金山校　土木工学科　1 年

上村　心音

16歳の春。特にやりたいこともなかった私は母に勧められ兄の通っていた土木科の高校へ入学しました。入学以前から街中で土木作業員の方たちの作業を何度か目にしたことがありますが一般的に3kといわれるように、私も「汚い、きけん、きつい」そういう偏見を持っていました。しかし土木についての知識を深めるうちに私にとっての3kという偏見は少しずつ払拭されていきました。

例えば私たちがいつもあたりまえに使っている道路や鉄道、ダムや橋、住む家だってそうです。土木という仕事がなければ存在しません。私たちが安全で快適な生活を送ることができるのは、土木に携わる方々が日々努力しているからです。さらに土木の仕事は普段の生活を支えるだけではありません。地震や豪雨などの災害が起こった際に真っ先に向かわなければならないのはどの仕事だと思いますか。一般的には消防や救急、自衛隊だと思われるかもしれません。しかし実際は、建設会社や土木会社が真っ先に現場へ向かい、重機などを使い、土砂やがれきを取り除くことで効率よく救命活動できるため多くの命を救うことができます。ニュースでは救命活動が注目されることが多いですが、その裏では土木という仕事が昼夜を問わず復旧活動を行い、人々の暮らしや生活を支えています。

このような土木の仕事を知った今、私は土木を「汚い」「きつい」という言葉だけで表すことはできないと思っています。確かに体力は必要で、大変な仕事であることに変わりはありません。しかし、それ以上に社会を支え、人々の命を守る、とてもやりがいのある仕事です。それでも土木を「汚い仕事」だと思いますか。私はもうそうとは思いません。むしろ多くの人々が安心して暮らせる社会を陰で支えている誇るべき仕事だと思っています。

このように土木の魅力を知っていくうちにもっと土木について学びたいと思えるようになりました。

高校を卒業した現在は工業の専門学校へ入学し、さらに専門的な知識や技術を学んでいます。土木の知識が深まるごとに自分も土木作業員の一員として社会に貢献したいという気持ちが強くなりした。

土木について学ぶ中で土木という仕事への偏見はなくなりました。しかしその一方で、今度は私自身が「女性だから」という偏見をもたれる立場になりました。実際に土木業界は男性が多く「女性には大変ではないか」「向いてないのではないか」という声を耳にすることが高校生のころからあります。しかし私は性別だけで仕事の向き不向きが決まるとは思いません。もちろん力の差はあるかもしれませんが土木の仕事は力だけで成り立つものではありません。知識や技術、責任感、連帯力、安全への意識など多くのことが求められる仕事です。だからこそ女性だからという理由で可能性を決めつけられるのは悔しいと感じます。

これまで偏見を持っていた自分だからこそ偏見で人や仕事を判断してはいけないことを学びました。その経験があるからこそ、今度は私自身が土木業界で活躍し「女性だから無理」という偏見を少しずつなくしていける存在になりたいです。

将来は施工管理として現場に携わり、自分がかかわった道路や橋など、多くの人の生活を支える構造物を造る仕事に就きたいと考えています。自分が携わったものがこれから何十年先も使われ、地図として残ることだけでなく、多くの人々の役に立ち、その場所で過ごした思い出の一部として人々の心に残り続けます。とても誇りに思える仕事です。以前はマイナスな偏見しかなかったですが今では土木という仕事に携われることにとてもやりがいと誇りを持っています。そして将来は自分自身もその土木業界の一員として社会に貢献し、偏見にも負けず、誰からも信用される土木技術者を目指して日々努力を続けていきたいです。

建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」作文の部

優　秀　賞

「 建設業が未来へつなぐ安全と安心 」

東海工業専門学校金山校 土木工学科 1年

金城 海斗

私は沖縄県の土木施工会社「豊神建設」に所属し、人材開発支援助成金制度を利用して現在は愛知県の東海工業専門学校金山校で土木について学んでいます。学校で学ぶ前に会社で現場を見学する機会があり、その経験が私の建設業への考え方を大きく変えました。

沖縄県には、第二次世界大戦で埋没した不発弾が現在でも数多く残っています。毎年多くの不発弾が発見されており、すべての処理が終わるまでには長い年月が必要だと言われています。私はこの事実を知り、戦争の影響が今でも私たちの生活に残っていることに驚きました。

そのような中、会社で、「ケーシング式土留め探査工」の見学をしました。この工法は、立坑を安全に築造しながら磁気探査を行い、不発弾を安全に探査するための工法です。安全性を高めるだけでなく、作業の効率化やコスト削減にもつながる技術であり、建設業はただ構造物を造る仕事ではなく、人々の命や暮らしを守る仕事でもあることを実感しました。

現場を見学した際には、実際に工事が行われる様子を近くで見ることができました。工事は機械を操作するだけではなく、作業員一人一人が周囲の安全を確認しながら慎重に作業を進めていました。また、現場では仲間同士で声を掛け合い、危険を未然に防ぐための確認を徹底している姿がとても印象に残っています。建設業には危険なイメージを持っていましたが、それ以上に安全を守るための努力が徹底されていることを知りました。この経験を通して、安全な施工は確かな技術だけでなく、一人一人の責任感やチームワークによって支えられていることを学びました。

その後、専門学校では測量や施工管理、構造力学などを学び、現場で必要な知識や技術の大切さを感じています。実際に現場を見学した経験があったからこそ、授業で学ぶ内容が「社会で役立つ知識」だと理解できるようになりました。

専門学校では、測量や施工管理だけでなく、土木施工や構造力学など、現場で必要となるさまざまな知識を学んでいます。授業では専門用語や計算など難しい内容も多くありますが、現場で実際に見た工事と結び付けながら学ぶことで理解が深まり、学ぶことへの意欲も高まりました。また、学校では仲間と協力して課題に取り組む機会も多く、建設業では知識や技術だけでなく、コミュニケーションや協調性も大切であることを学んでいます。

私は、人材開発支援助成金制度を利用して県外で学ぶという貴重な機会をいただきました。沖縄を離れて愛知県で生活しながら学ぶことは初めての経験であり、不安もありました。しかし、多くの先生や仲間に支えられながら学ぶことで、自分自身も大きく成長できていると感じています。このような機会を与えてくださった会社への感謝の気持ちを忘れず、学んだことを沖縄へ持ち帰り、会社や地域に恩返しができる技術者になりたいという思いが強くなりました。

私は卒業後、沖縄へ戻り、豊神建設で仕事を続けながら、専門学校で身に付けた知識や技術を生かして、沖縄の安全を守る仕事に携わりたいと考えています。
不発弾探査をはじめ、地域のインフラ整備や災害対策などを通して、人々が安心して暮らせる環境づくりに貢献できる技術者になりたいです。

建設業は道路や橋などを造るだけではありません。地震や台風、大雨などの災害が発生した際には、被害を受けた道路や橋の復旧、土砂災害への対応など、人々の生活を一日でも早く元に戻すために重要な役割を担っています。私たちが普段何気なく利用している社会インフラは、多くの建設技術者の努力によって支えられており、その仕事は地域の安心と安全に欠かせないものです。

建設業は「きつい仕事」というイメージだけではありません。社会の安全を守り、人々の暮らしを支え、未来へ形を残す仕事です。私はこれからも知識と技術を身に付け、一人でも多くの人に安心を届けられる建設技術者を目指して努力していきます。

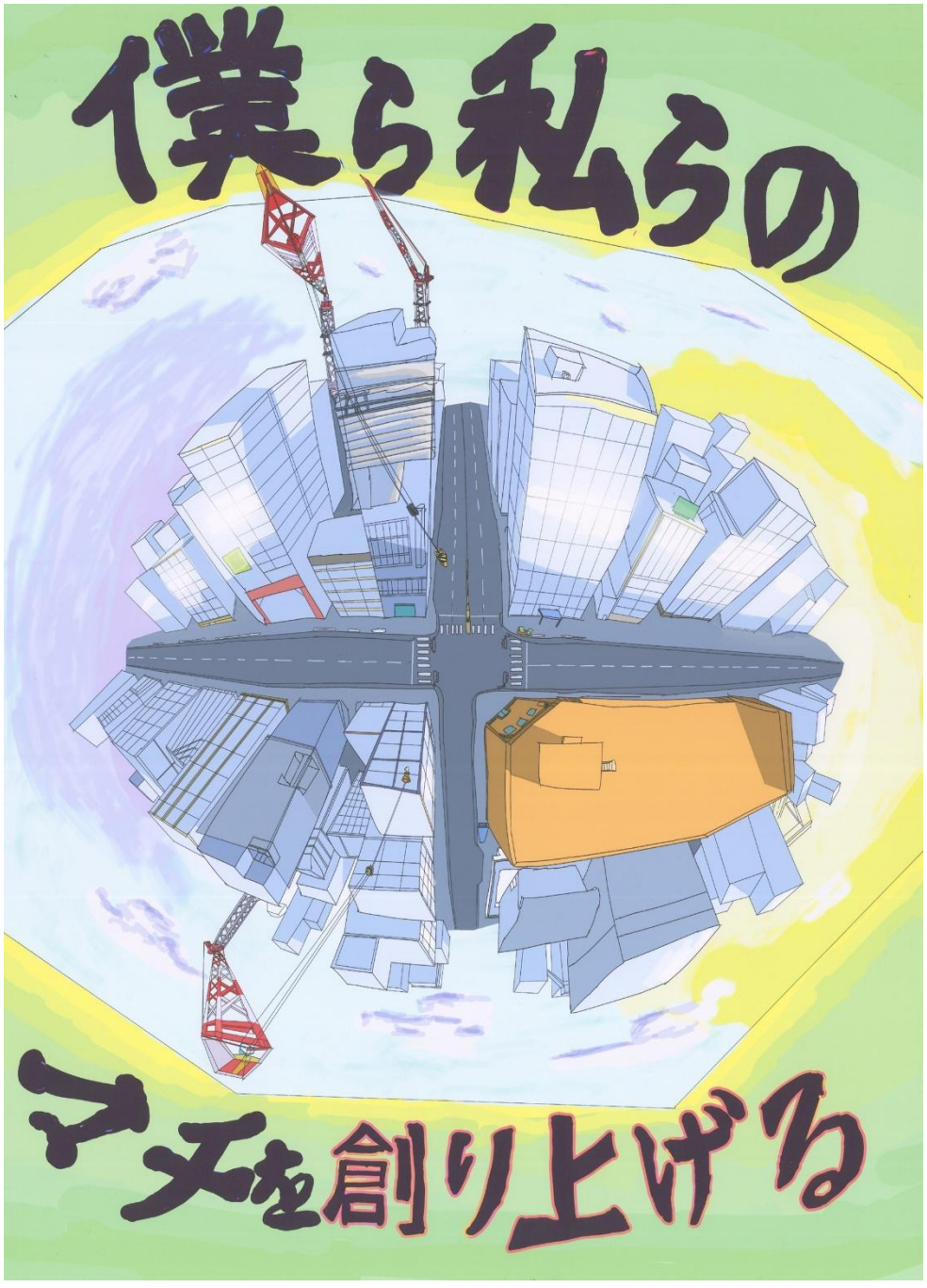
建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」ポスターの部

最優秀賞

「 僕ら私らのマチを創り上げる 」

愛知県立愛西工科高等学校　建築デザイン科　1年

髙橋　爽悟



建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」ポスターの部

優　秀　賞

「 人と街の未来を創る 」

愛知県立鶴城丘高等学校　総合学科　2年

石橋　優斗



建設系高校生による「～建設業に思いを込めて～」ポスターの部

優　秀　賞

「 手を取り合い未来を築く 」

愛知県立鶴城丘高等学校　総合学科　3年

宮下　芽衣



建設系専門学校生による「～建設業に思いを込めて～」ポスターの部

最優秀賞

「 未来を灯す街づくり 」

東海工業専門学校金山校　インテリアデザイン科　1年

田中　結菜

